

地域を支える PTA ■ 社会教育 ■ 民生・児童委員 ■ 地方議会

住民とつくるキャリア授業

地域住民と一緒に、キャリア教育の授業をつくり上げる千葉県浦安市立日の出中学校。自分の仕事に関心を持ってくれた生徒を前に、一人一人の大人が自ら積み上げてきたキャリアを語る。そんな授業が今年も今月上旬に終わったばかりだ。在校生・卒業生の保護者など、さまざまな立場の人たちで構成する「サポーターズクラブ」が、教員と一緒に授業計画を練り、講師への研修を行うなどしている。

土曜日の午後、26人の講師が教室、体育館など校内のあちこちに「ブース」を設けた。1年生の総合的な学習の時間の授業。10人弱の1年生が各ブースを訪ね、講師の話に耳を傾けた。

裁判官、航空機のパイロット、中学校教師など、さまざまな職種の人が講師を務めた。サポーターズクラブは9月に、保護者や住民などに対し、講師役と運営スタッフへの参加を呼び掛けた。26人の講師が集まった。

古里をつくりたい

平成6年開校の日の出中の周りには、真新しい集合住宅が立ち並ぶ。あちこちから移り住んできた人たちが町をつくった。住民が増え、学校が新設される中、「子どもたちの古里をつくりたい」という声が高がるよ

千葉・浦安市立日の出中

小学校には、PTAとは別に、父親が中心となっていて、子どもの育ちを支える団体が発足。おやじの会」などとして活動の幅を広げる一方で、中学校側にはPTAしかなかった。そのPTAは、保護者への負担をできるだけ

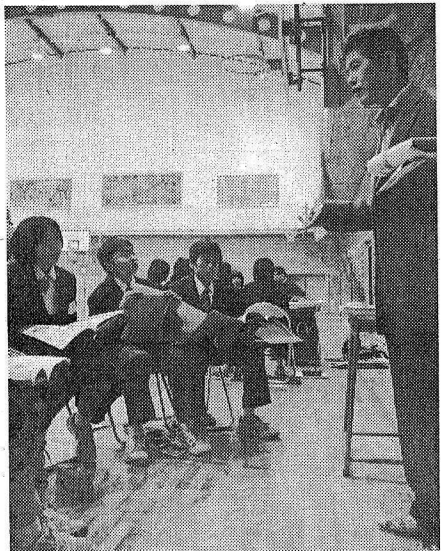
計画から講師募集、研修まで

千葉・浦安市立日の出中

うになった。小学校には、PTAとは別に、父親が中心となっていて、子どもの育ちを支える団体が発足。おやじの会」などとして活動の幅を広げる一方で、中学校側にはPTAしかなかった。そのPTAは、保護者への負担をできるだけ

少なくしようと配慮をして活動していたという。そこで「サポーターズクラブ」が発足する。小学Aと学校が一緒になって、身近な大人である保護者が自分の仕事についての進学に伴い、在校生の保護者だけでなく、卒業生の保護者、学区に住む市民など、いろんな人たちに参加を呼び掛けた。

昨年夏のことだった。サポーターズクラブ結成の土壌はあった。PT成の土壌はあった。PTを一人で担当する。生徒は30分間ずつ、二つのブースを訪ねる。事前学習で生徒から募った希望などを基に、訪問先のブースを決めておき、生徒は講師に自分の関心事などを文書で伝えた。2時間続きの授業の最初と最後は、教員が進行役を務めた。サポーターズクラブは講師を対象に、授業前の打ち合わせ、授業後の振り返りの会を進めた。教員とサポーターズクラブは協力しつつ役割を分担し、一連の授業を進めてきた。昨年講師を務めた新聞記者の男性は、今年は運営側に回った。この日の振り返り



「コミュニケーション力を身に付けるには社会人になってからでは遅い。中学校生活をおろそかにしないでは」と語り、新聞記者(右)

緒につくり上げた。学校や生徒を守る防犯活動や、教員や生徒だけでは難しい清掃活動にも取り組んでいる。同中学校の大坪桂校長は、「キャリア教育をはじめ、大変にありがたいこと」と語る。9月に始まった1年生向けの一連のキャリア教育。サポーターズクラブが作った資料などに基づいて、教員が生徒に自分の適性や職業について考えさせた。大坪校長自身 3800・7100 日の出中 047

も教室に仕向いて生徒に語り掛けた。こうして12月の「本番」を迎える。サポーターズクラブから研修を受けていた講師は30分間の授業を一人で担当する。

生徒は30分間ずつ、二つのブースを訪ねる。事前学習で生徒から募った希望などを基に、訪問先のブースを決めておき、生徒は講師に自分の関心事などを文書で伝えた。2時間続きの授業の最初と最後は、教員が進行役を務めた。サポーターズクラブは講師を対象に、授業前の打ち合わせ、授業後の振り返りの会を進めた。教員とサポーターズクラブは協力しつつ役割を分担し、一連の授業を進めてきた。昨年講師を務めた新聞記者の男性は、今年は運営側に回った。この日の振り返り